

出題分析		
試験時間 60 分	配点 100 点	大問数 4 題
分量 (昨年比較) [減少 同程度 増加]		難易度変化 (昨年比較) [易化 同程度 難化]
<p>【概評】</p> <p>例年通り、全 50 問の選択問題。大問 4 題構成のうち、〔Ⅰ〕・〔Ⅱ〕・〔Ⅳ〕が語群選択式、〔Ⅲ〕が三者択一式であった。〔Ⅰ〕で近世・近代の社会、〔Ⅱ〕で古代の文化、〔Ⅲ〕では 3 つの史料から近現代の政治・外交、〔Ⅳ〕で古代～近世の社会・文化、対外関係をテーマにそれぞれ問われた。また、〔Ⅳ〕では地図より適切な位置を選ぶ問題が今年も出題され、関西大学入試日本史では定番である。</p> <p>一部で細かい知識が要求されたものの、多くは基礎～標準的なレベルの問題であり、遺跡の所在地を地図上から選んで解答しなければならなかった昨年に比べると易化したといえる。過去問演習を含めた日頃の学習の成果が反映されるため、高得点を目指したい。</p>		

設問別講評			
問題	出題分野・テーマ	設問内容・解答のポイント	難易度
〔Ⅰ〕	近世・近代の社会	(A) で江戸時代の新田開発・農業、(B) で江戸時代後半の江戸・大坂周辺の社会、(C) で明治時代の労働者をテーマに問われた。おおむね標準的な知識が求められたが、知識が曖昧であれば判断に迷う問題も散見されたため、差がつくだろう。(1). やや細かい知識が問われた。(4). 迷ったかもしれない「竜野」は現在の兵庫県にある。(8). 昨年同日程、同大問(2)でも高島炭鉱事件が出題された。(9). 迷ったであろう『日本之下層社会』は横山源之助の著作。(10). やや細かい知識が問われた。	標準
〔Ⅱ〕	古代の文化	(A) で主に天平文化、(B) で弘仁・貞観文化、(C) で国風文化について問われた。大半は基本～標準レベルであった。(3). やや細かい知識が問われた。(5). 西暦年しかヒントがないため、やや難。迷ったであろう『凌雲集』は、嵯峨天皇の命で編纂された最初の勅撰和歌集 (814 年成立)。(9). 語群中の『物語』であるキ・コ・ヒから消去法で解答できる。(10). 判断にやや細かい知識を要した。	標準

設問別講評			
〔Ⅲ〕	近現代の政治・外交	<p>昨年に引き続き 3 つの史料から出題された。(A) 「牧野伸顕文書」より黒田清隆首相の超然主義演説, (B) 『日本外交文書』より九カ国条約, (C) 『日本外交主要文書・年表』より日ソ共同宣言を用いて出題された。問 1. 大日本帝国憲法が發布された 2 月 11 日を選べばよい。問 4. 帝国議会の開催は大日本帝国憲法発布の翌年であること, 史料中に「人民ニ臨ミ」とあることから消去法で判断すればよい。問 6. やや細かいが, 九カ国条約が締結された時点でソ連は成立しておらず, ドイツは第一次世界大戦の敗戦により中国・太平洋における権益を放棄している。問 10. ワシントン海軍軍備制限条約で, アメリカと日本の主力艦保有比率は, 5:3 とされた。問 14. 日ソ共同宣言では, 国後島・択捉島の返還について両国の意見は一致していない。なお, 未だに北方領土問題は未解決であり, 日本とロシアは平和条約を締結していない。</p>	標準
〔Ⅳ〕	古代～近世の社会・文化, 対外関係	<p>(A) 10 世紀の東アジア世界, (B) 後醍醐天皇の倒幕運動, (C) 中世の北海道, (D) 室町時代の文化, (E) 近世におけるロシアの接近のリード文をもとにそれぞれ問われた。(1). 細かい知識が問われた。(4). 後醍醐天皇の倒幕運動に関連して覚えていたかどうか。</p> <p>地図上で位置を選ぶ問題は教科書の知識があれば解答可能であるとはいえ, (C) の十三湊, (D) の山口, (E) の根室の正確な位置はやや細かい。</p>	標準

合格のための学習法

設問の多くは教科書掲載の基本事項で構成されているが, 一部で細かい事項が問われるため, 丁寧な学習が必要である。時代・テーマに偏ることなく, 教科書本文に書かれている事項はもちろん, 図表や脚注などにも注意して学習しておきたい。用語集で頻出語句として赤字で示されている語句については, 特にその説明にも注意してほしい。史料問題では, 過去問演習を通じて傾向を掴みつつ知識を深め, 問題慣れもしながら学力向上に努めよう。苦手とする受験生が多い文化史についても, 日頃より美術・文芸・教育など, 図説資料集等を用いて視覚資料と合わせて幅広く学習しよう。